

日本クリスチャン・アシュラム連盟

イエスは 主なり



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 116

殉教の系譜

辻中昭一



：祭壇と聖所の間で殺されたゼカル

ヤの血にまで及ぶ。そうだ。言っておくが、今の時代の者たちはその責任を問われる。」

(ルカ福音書11章51節b)

○ゼカルヤという名から 私たちの名前にはそれぞれ意味があるように、イスラエルの人々の名にも意味がある。ゼカルヤ、あるいはザカリヤという名は「ヤーウエ（又はヤハウエ）が覚えておられる」という意味である。人間はよく忘れる。老境に入るといよいよ物忘れがひどくなる。しかし神は覚えておられる。永遠にいましたもう神は、時間の流れの中で忘れ去られていく一人の人格のことを永遠に覚えていてくださる。

○そのような神のご性格を見事に表現している名前がゼカルヤ（あるいはザカリヤ）という名である。この名から、私はルカの心に浮んできたと思われるもう一人のザカリヤのことを思いうかべる。

○バプテスマのヨハネのお父さん

ルカ福音書第一章四節には「アビヤ組の祭司ザカリヤ」という句が見られる。アビヤという名は「私の父はヤーウエ」という意味である。このザカリヤを父とし、母エリサベトとの間にバプテスマのヨハネは誕生した。ザカリヤもエリサベトも人生の老境に入っていた。しかし、神はこの二人のことを覚えておられ、彼らに男の子を与えてくださった。それがバプテスマのヨハネであった。荒野に出て行って、蝗や蜂蜜を食物としながら、神のみことばを人びとに伝え、来るべき神の国への備えとして、罪のゆるしのバプテスマを受けよ、……と叫びつづけた。ヨハネのもとにやって来て、彼の説教を聞いた人びとは、悔改めてバプテスマを受けた。

このヨハネより罪の指摘を受けていたヘロデは、彼の兄弟フィリポの妻ヘロディアやその娘サロメの奸計によって、ヨハネの首を斬り、これをサロメに与えるという暴挙をおこなう。ザカリヤの子、ヨハネは真理のゆえに命を奪われてしまう。

○大祭司のゼカルヤとその死

先にあげた聖句にこの人の名が見られる。歴史家であり、伝道と祈りの人であったルカは、殉教者となつたゼカルヤの名をあげたとき、矢張り殉教者となつたバプテスマのヨハネ、そして彼のお父さんであった祭

司ザカリヤのことを心に思い浮かべていたことであらう。

大祭司ゼカルヤは大祭司ヨヤダの息子であった。ヨヤダは総督ゼルバベルと共に、エルサレム神殿の再建に尽力した。また彼は、若い王、ヨアシユに仕え、妻となるべき人を見つけ出し、結婚の道を開いた。ヨアシユ王にとって忘れることのできない恩人でもあったゼカルヤは、神殿再建の資金集めにも精力を傾けた。その結果、莫大な献金（今のお金にすると十数億円ぐらい）が集まり、これが有効に用いられて行った。しかし、ヨヤダは老齢のため一三〇才で死を迎える。

ヨヤダの死が契機となってヨアシユ王の態度は一変した。ヤーウエに対する真実な心は急変し、偶像礼拝や異教の神々の礼拝がヨアシユの心を占有する。そしてヤーウエ礼拝の中心的存在であり、恩人の息子であった大祭司ゼカルヤは、ヨアシユ王にとって極めて危険な批判勢力の筆頭、除き去らねばならない人物と映るようになった。自分の王位を守るため、また偶像礼拝、異教神崇拜を推進して行く王に都合の良い指導者層からの入れ知恵もあったのか、遂にゼカルヤをエルサレム神殿の中心で殺害してしまうのである。

大祭司として長年労苦し、また神殿再建に力をつくした懐しい父エホ

ヤダの面影が浮かびあがるこの神殿の庭で、大祭司ゼカルヤは肉を裂かれ、血を流して死んで行った。

ゼカルヤ、バプテスマのヨハネ、そしてイエス・キリストという殉教の系譜を私たちはルカが書き残した一句の中に見出すのである。

(日本基督教団出来島伝道所牧師)



スタンレー
ジョーンズ
コーナー

父・母の思い出(ユニスマシユーズ)

131

小さい町で働く宣教師として、母メイベルはあらゆる緊急の事態に備えていなければなりません。医師としての訓練は受けていませんでしたが、医者としての務めを果さなければなりません。私は小さい時に、私の家のベランダの外に、人々が助けを求めて長い列をつくっていたのを憶えています。

役所からの医師は四万人の町とその周辺の村々の医療に当るに必要な時間をほとんどもっていませんでした。彼女は英国人の医師の助けと医学書によって多くの人々に医療を施しました。多くの緊急事態がある中

で、或時、恐るべきコレラの疫病が発生し、目の前で人が死んで行きました。その場合どの子が生き、どの子が死ぬかを素早く決めなければなりません。彼女の前で二人の少年が共に死につ、ありました。彼女は自分の人生での最大の困難に直面しました。一人は孤児でしたが、彼女の学校では最も優秀な生徒であるが、他の子には両親がありました。彼女は両親のある子供を選びました。彼女は農業に就いても学ばなければなりません。それは寮の生徒の全ての食糧を生産しなければならなかったからでした。

彼女は熟練した管理者であると共に建築者でもありました。学園内の殆どどの建物は彼女の設計、監督によって建てられたものです。

救済事業は今と同様にその時代も宣教師の仕事の一部分でした。町でも村でも求めのある時は、彼女はこたえて出かけました。

時間を少し頂いて、或救済の働きに就て話しましょう。家の前を流れている小川に洪水が出たことがありました。彼女は少年たちの一年間の食糧として穀物を倉庫に入れたばかりでした。水がきて溢れ建物の屋根に達しました。穀物の中にはありました。水が引いた後、彼女は何百という村人が押し流され、食物がないことを知りませんでした。彼女は同時に自分

が蓄えた穀物に何が起こりつ、あるかを知りました。水の中に穀物は五日間置かれて料理されていきました。穀物は狭い入れものの中で膨れ、煉瓦の壁を土台から押し離してしまいました。蒸し暑いでした。彼女は村人に私のところに食べ物があると告げました。村人たちは何百人もの群をなして、あらゆる器、サリを持ってやって来ました。料理された穀物はシャベルでそれらの器に入れられました。穀物は間もなく醗酵したことです。

カウンセラーとして、彼女は大変に賢明でした。若い人々は彼女に引き付けられました。年を取った人々、役人、町の人々、英国人の官吏たちもしばしば来て彼女の助言を聞きました。私たちの町に行政を司る委員会があり、二十一人の委員によって構成されていきました。彼女は非キリスト教徒の人々によって選挙されて、行政委員会の委員となりました。彼女はただ一人の女性、ただ一人の非インド人、ただ一人のキリスト教徒でした。しかし彼らは絶大な尊敬を彼女に払いました。二十二年間彼女は女性キリスト者として、その委員会で名誉ある地位を占めていました。多くの採決は彼女の投票で決定されました。何故なら、彼女以外は十人の印度教徒と十人の回教徒に分かれて互いに反対の立場にいたからです。

これはキリスト教徒として真の証しをするまたとない機会でした。クリスチャンでない人々は、彼女が買収できないことを知っていました。彼女は良心に従って投票したからです。多くのクリスチャンは影響を受け、大いに励まされました。クリスチャンの働きと宣教が目的を達しているのを見たからです。それは隠れたことですが、人々に理解されました。たとえば、孤児院のことはクリスチャンの働きの前には誰も聞いたことがありませんでした。しかし、私たちの町には牛のための孤児院が存在していました。つまり老いた牛のための孤児院がありました。牛は神聖な動物ですから、危害を加えることは出来ず、老いたる牛には家がありました。私たちはそれを牛の孤児院と呼んでいました。インドの人々は孤児院のことなど気にしませんでしたが、牛は気にしました。

(次号へ続く・白川訳)

アシュラム生活最良の友

アパ・ルーム

海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、霊的な読物

価300円、〒90円、年2,340円(〒共)

申込先 ☎256-0812 小田原市国府津3-11

振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム

電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来47年続行中

《今秋の各地アシュラムの予定》

▲九州・第33回アシュラム

・9月23日(日)〜24日(月)

・福岡／黙想の家

・助言者／海老沢宣道師

・主題「震われない御国」

・申込先／北九州市小倉区守垣4

12-13 岡山敦彦

☎093-961-1910

▲関西・第32回アシュラム

・9月22日(日)〜23日(月)

・滋賀大津皇子山、国際交流セミ
ナー・ハウス

・主題「献身と奉仕」ロマ12・1

・助言者／土山牧羔、金元治、
川谷威郎、外の諸師

・会費／10,000 (含登録費)

・申込／9月14日

京都復興教会 清水 潔

☎075-591-7291

▲関東・第36回アシュラム

・9月22日(日)〜24日(月)

・山崎製パン箱根山荘

・主題「心の底から新たにされて」
エフエソ4・23

・助言者／横山義孝師

・費用／登録費 3,000
会費 15,000

・申込先／東京都目黒区中央1-

21-10 碑文谷教会 大石嗣郎

☎03-3712-5758

▲第3回富山アシュラム

・8月31日(日)〜9月1日(月)

・富山市インテック研修センター

・主題「この人による以外に
救いはない」

救いはない

・助言者／大石嗣郎師、後宮俊夫師

・会費／12,000

・申込先／富山市新屋新町8-103

☎0764-51-3009

◇どうか最寄りのアシュラムに奮っ
てご参加下さい。

日本アシュラム連盟
全国理事会議事抄録

◇98年4月29日 国際文化会館

◇新加盟地区の承認

富山地区アシュラムの本連盟加入
を認めた。

◇役員改選

・海老沢宣道、洲江淳一、白川鄭二
の三氏の理事の辞任と横山義孝、
有馬歳弘、島津吉成の三氏の理事
就任が承認された。

・海老沢理事長の理事辞任に伴い、
大石嗣郎理事が連盟理事長に就任
・海老沢氏は名誉理事に推薦された

・新理事会の職務分担は次の通り。

△書記△木部△会計△島津、飯島
△出版△会報編集△横山、有馬。

◇セミナー開催の方針に就て。セミ
ナーを企画した初めの目的である

助言者養成をより効果あるものと
するため、パネラーを立て、アシ
ュラムの根本精神、祈禱生活の具

体化などにつき研修すること。そ
の日程は役員会で作成する。

バルナバ・アシュラム報告

今年も5月3日〜5日、日野ラサ
ール研修所で、教団ホーリネスの群
委員長、原田 謙師を助言者として
「信仰と聖霊に満ちた人」を主題と
する、ステパノとバルナバの信仰の
業績を学んだ。

さすがベテランの原田師の一回九十
分たっぷり使って迫力と説得力に満
ちた講話を四回。これを一心同体と
も言うべき島隆三師のベテラン司会
で参加者を魅了した。今まで聞いた
こともない深い内容の話で、参加者



一同、目の覚める思いであった。

特に、洲江淳一師の決別説教とも
言うべき開会礼拝説教。加えて海老
沢宣道委員長の八十分たっぷりの開
心の時の満ちたし。二日目早朝のバル
ナバ・アシュラムから生まれた伊藤
節新任牧師の「きよめの信仰」の証
しは好評で、内容を充実させるもの
があった。参加者有志の「イエスは
主である」の三唱とハレルヤの三唱
で満ちあふれたアシュラムを終了し
た。
(石神勇 報)

東京〇〇一〇〇一四四五五八
理事長 大石 嗣郎
編集人 有馬 歳弘
定価 一部60円 千80円

スタンレー・ジョーンズ博士の遺言的大著

『震われない御国と 変わらない人格』

キリスト教二大原理の霊的説明
洲江淳一・千代子共訳

宇宙と人生の究極目的を知りたい万人の書

・B6版・並製・504頁
・価2600円・送料310円

発行所・日本クリスチャン・アシュラム連盟
〒152-0001東京都目黒区中央町1-21-10

〈四十年の恵み〉
日本アシュラムの歩み(8)

海老澤宣道

◇第十回全国伝道の終了

前号記載の通り、ジョーンズ博士による第十回全国伝道は、71年十月から60日間、42都市で一五四回の講演をされ、12月一日国際文化会館での感謝送別会では非常な喜びを以て『今まで九回したが、今回が最もよく準備され、集会者も決心者も多く与えられ感謝に耐えない』と言われた。(この送別記念写真は小冊子『アシュラムの原則と実際』の口絵参照)翌二日夜に羽田空港に見送った私共十数名に『恐れるな、小さき群れよ。御国を賜うことは父の御心なり』と言って祈られ、機上の人となられたが、帰米して休む間もなくオクラホマ州アシュラムを指導中の最後の前夜に、脳卒中で倒れられた。その電報を受けた時のショックは大きかった。折返し見舞電報を送ると、娘のユニスや総主事のリチャードソン師から詳報と共に、全世界の祈りとお手紙を送って欲しいとの伝言があり、翌年一月三日は博士の満88才の誕生日なので間に合うように、日本委員会の感謝と誕生の祝言を送った。72年になってポストンの病院に移り一流の治療を受け、28冊目の

著作『震われない御国と変らない人格』に続き、半身不随と言語障害の病床で次の著作『神の然り』の口述を始めた。

北米連盟の総主事からの第四報の内容には感激したのでここに再録しよう。『今ポストンのリハブ病院から帰宅したが、病院では悲しみと共に苦しみと共に喜ばしい経験をした。私共バーク、ハンター、マシウス夫妻、メリーウエプスターとベッドの周りに集った。スタンレーは短い最も重要な説教をした。『これは終りではない。初めである。私は同じ人間でも変わってはいない。震われない御国と変らない御人格に属している。主が私を癒やされるか、そうならぬかは知らないが、神の然りと勝利を信じている。開かれた戸が見える。私は起る出来事に頼っていない。震われない御国と変らない御人格に属しているから。アシュラム運動も変らない。ただそれと私の関係は変わるだろう』。その後彼の愛唱聖歌を歌い、一同が互に手を置いて祈り、主の祈りを捧げ、三本指で『イエスは主なり』のサインをして終った。これは一生忘れられない記念の集会となった。

北米からの第五報によると、72年一月の連盟理事会でスタンレー兄弟を名誉理事長に、ジム・マシウスを新理事長に選挙し、この年六月に世界最初の国際アシュラムをエルサレムで開催する準備、ガリラヤ湖畔にアシュラム・ハウスを建設。ハワイとカリビヤ地方の応援などを協議したという。

第六報によればこの二月にはスタンレー兄弟の容態は快方に向っている様子で、眼はまだ悪いが、声が出るようになり、助けを借りて一歩ずつ歩けるようになった。総主事が帰ろうとした時、彼は『奇蹟的な道でも、漸進的な道でも受入れます。何れにするか、神よ、おきめ下さい』と祈ったという。

第七報によると、総主事が新任会計と共にポストンの病室を訪ねると、気分良く、付添看護人たちの介抱のすばらしさをほめていた。娘夫婦と話し合っている事は、五月に一度インドへ戻り、六月には聖都での世界アシュラムに出て開会の挨拶をしたことであった。

72年四月から二ヶ月間、マサチューセッツ州ケンブリジの聖霊病院に移って更にリハビリを受け、六月にはインドのサトタル道場に帰り、退修会を指導したが、歩行も視力も衰えるばかり、遂に医師たちは何も出来ない、神に祈ることをお勧めすると言った。救世軍のブラス大将と同様、『失明しても神と人々とに仕えて行く』と決心された。

七月には途中車椅子で、インドから

ラテルアビブに飛び、聖都のYMCAホールに集まる各国からの同志数百名に世界アシュラムの開会礼拝で挨拶をすることができた彼は、この祈禱生活運動を彼らに委ね、主に委ねて再びサトタルに帰った。私への来信には『もう医師と相談する必要がなくなった。ヒマラヤへ帰り、主イエスとだけ語り合うことにした』と書いてあった。そして翌年一月まで半年間、静かに主イエスとの靈交の日々を送り、最後の著作『神の然り』の口述を満八九才の誕生日(三日)に終了、遂に二五日の朝、彼が最も愛したインドから、古代のエノクのように神によって天に取上げられ、見えなくなったのである。

◆インド途上のキリスト

一九八六年一月改定版
E.S.ジョーンズ著新訳者 海老澤宣道
価一、九〇〇円 三三六〇円

◆編集後記◆

一九九三年一月号から編集に当たった白川鄭二師は本年七月を以て退任し、新進熟練の有馬歳弘師が今後の会報編集に携わられることになりました。今までの御支持に感謝し、今後のご愛読をお願いいたします。尚次回より年四回の発行にいたします。

日本アシュラム会報編集委員会